

6 歯の健康(案)(H.23.5.26版)

〈指標の達成状況〉

改善した	目標値に達した		
	目標値に達していない		
変わらない			
悪くなっている			

※各指標の達成状況については、別添シート参照

〈総括評価〉

○幼児期のう蝕予防
 ②フッ化物歯面塗布を受けたことのある幼児の割合において改善がみられ目標値を達成し、①う蝕のない幼児の割合、③間食として甘味食品・飲料を頻回飲食する習慣のある幼児の割合、④一人平均う蝕数、⑤フッ化物配合歯磨剤を使用している人の割合、⑥過去1年間に個別的な歯口清掃指導を受けた人の割合において改善がみられた。

○成人期の歯周病予防
 ⑦進行した歯周炎を有する人の割合(40、50歳)において改善がみられ目標値を達成し、⑧歯間部清掃用器具の使用する人の割合、⑨喫煙が及ぼす健康影響(歯周病)について知っている人の割合において改善がみられた。

○歯の喪失予防
 ⑪80歳で20歯以上、60歳で24歯以上の自分の歯を有する人の割合、⑫過去1年間に定期的な歯石除去や歯面清掃を受けた人の割合、⑬過去1年間に定期的な歯科検診を受けた人の割合において改善がみられ目標値を達成した。

〈指標に関連した施策〉

○ 8020運動推進特別事業(H12～)
 ○ 歯の健康力推進歯科医師等養成講習会(H20～)
 ○ フッ化物洗口のガイドライン策定
 ○ 1歳6ヶ月歯科健康診査、フッ化物歯面塗布
 ○ 3歳児歯科健康診査、フッ化物歯面塗布
 ○ 母と子のよい歯のコンクール
 ○ 学校保健安全法(歯科健診)
 ○ 健康増進法・健康増進事業
 ・ 健康教育:歯周疾患
 ・ 健康相談:歯周疾患
 ・ 訪問指導
 ・ 歯周疾患検診
 ○ 高齢者医療確保法・特定保健指導(保健指導における学習教材集)
 ・ 歯周病・噛む・歯の健康
 ・ たばこ
 ○ 介護保険法
 ・ 介護予防一般高齢者施策・地域介護予防活動支援事業・介護予防事業
 ・ 介護予防特定高齢者施策・通所型介護予防事業あるいは訪問型介護予防事業「口腔機能の向上」
 ○ たばこの健康影響に関するホームページを立ち上げている等を実施

健康日本21の目標値に対する直近値に係るデータ評価シート(案) (H.23.5.26版)

歯の健康分野

記載留意事項・・・各項目の冒頭には、見出しとして分析結果、課題等を要約として記載してください。
詳細なデータ解析をした場合は、解析結果や二次資料を添付してください。

分野: 歯の健康			
目標項目: 6.1 う歯のない幼児の増加(う歯のない幼児の割合－3歳)			
目標値	策定時のベースライン値 (H10年度3歳児歯科健康診査)	中間評価 (H15年度3歳児歯科健康診査)	直近実績値(H22.10月現在) (H20年度3歳児歯科健康診査)
【全国平均】 80%以上	59.5%	68.7%	75.4%
	コメント		
	経年変化を踏まえたベースライン値と現状の分析、特徴(性、年齢、項目別の分類など)を踏まえた分析		
(1)直近値に係るデータ分析 ・直近値が、目標値に対してどのような動きになっているか、留意点を含み分析	<p>○直近実績値とベースライン値とを比較すると、15.9ポイント増加している。</p> <p>○年間の増加率は約1ポイントとやや鈍化しているが、着実に増加している。</p> <p>○直近実績値とベースライン値とを比較すると、17.6ポイント増加している。</p> <p>○年間の増加率は約1ポイントとやや鈍化しているが、着実に増加している。</p>		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。	<p>□都道府県単位のデータが利用できるので、「目標達成都道府県数(%)」として評価する方法が考えられる。</p> <p>□また、データは、かなり古い時点から利用できるため、長期トレンドが把握可能。</p>		
(3)最終評価 ・最終値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。	○目標に向けて改善した。		
(4)今後の課題及び対策の抽出 ・最終評価を踏まえ、今後強化・改善等すべきポイントを簡潔に記載			
(5)その他コメント			

分野: 歯の健康			
目標項目: 6.2 フッ化物歯面塗布を受けたことのある幼児の増加(を受けたことのある幼児の割合-3歳)			
目標値	策定時のベースライン値 (H5年歯科疾患実態調査)	中間評価 (H16年国民健康・栄養調査)	直近実績値(H22.10月現在) (H21国民健康・栄養調査)
【3歳児の平均】 50%以上	39.6%	37.8%	64.6%
コメント			
経年変化を踏まえたベースライン値と現状の分析、特徴(性、年齢、項目別の分類など)を踏まえた分析			
(1)直近値に係るデータ分析 ・直近値が、目標値に対してどのような動きになっているか、留意点を含み分析	<p>○3歳の時点でフッ化物歯面塗布を受けたことのある幼児は、減少傾向から増加傾向に移行しつつある。</p> <p>○平成17年の歯科疾患実態調査の結果では、15歳未満で59.2%(3歳の時点では48.9%)であった。</p> <p>○3歳の時点での直近実績値は調査方法は異なっているが、増加傾向が見られる。</p>		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。	<p>○国民健康・栄養調査と歯科疾患実態調査の直近実績値に差については、調査方法による差異と考えられるが、全体として増加傾向にあり、その傾向については要検討。</p> <p>○歯科疾患実態調査では、フッ化物歯面塗布の調査が1969年から行われ、全体的にみると一貫して増加傾向にある。</p>		
(3)最終評価 ・最終値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。	○目標に向けて改善がみられ、目標値を達成している。		
(4)今後の課題及び対策の抽出 ・最終評価を踏まえ、今後強化・改善等すべきポイントを簡潔に記載	<p>□歯科疾患実態調査で特定の年齢に絞って評価するのは例数の関係で値が不安定である可能性があるため、全体的な傾向を評価するように改めるべきではないか。</p> <p>また、行政事業として実施されているフッ化物歯面塗布の実施状況を評価するのであれば、厚労省の「地域保健・健康増進事業報告」地域保健編の「母子保健」にある「歯科保健」の「予防処置」の実施人数等のデータは、事業提供度を示す指標として有効活用が可能と考えられる。</p>		
(5)その他コメント			

分野: 歯の健康

目標項目: 6.3 間食として甘味食品・飲料を頻回飲食する習慣のある幼児の減少(習慣のある幼児の割合－1歳6ヶ月)

目標値	策定時のベースライン値 (H3年久保田らによる調査)	中間評価 (H16年国民健康・栄養調査)	直近実績値(H22.10月現在) (H21国民健康・栄養調査)
【1～5歳児の平均】 15%以下(※健康日本21策定時には目標値なし)	29.9%	22.6%	19.7%
コメント			
(1)直近値に係るデータ分析 ・直近値が、目標値に対してどのような動きになっているか、留意点を含み分析	経年変化を踏まえたベースライン値と現状の分析、特徴(性、年齢、項目別の分類など)を踏まえた分析 ○ベースライン値は、研究者の資料に基づくものであり、地域が限定されているので全国平均である直近実績値と比較することは困難であるが、中間評価(平成16年国民健康・栄養調査)と比較して2.9ポイント減少しており、全体的に減少傾向にある。		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。	○ベースライン値は、研究者の資料に基づくものであり、地域が限定されているので全国平均である直近実績値と比較することは困難である。		
(3)最終評価 ・最終値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。	○目標に向けて改善した。		
(4)今後の課題及び対策の抽出 ・最終評価を踏まえ、今後強化・改善等すべきポイントを簡潔に記載			
(5)その他コメント			

分野: 歯の健康			
目標項目: 6.4 一人平均う歯数の減少(一人平均う歯数-12歳)			
目標値	策定時のベースライン値 (H11年度学校保健統計調査)	中間評価 (H16年度学校保健統計調査)	直近実績値(H22.10月現在) (H22年度学校保健統計調査)
【全国平均】 1歯以下	2.9歯	1.9歯	1.29本
コメント			
経年変化を踏まえたベースライン値と現状の分析、特徴(性、年齢、項目別の分類など)を踏まえた分析			
(1)直近値に係るデータ分析 ・直近値が、目標値に対してどのような動きになっているか、留意点を含み分析	○ベースライン値2.9歯に対し、直近実績値では、1.61歯減少している。		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。	○学校保健統計調査であるため、全国規模の結果となっているが、公表資料によると地域における格差がみられ、その分析等も必要である。		
(3)最終評価 ・最終値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。	○目標に向けて改善がみられた。		
(4)今後の課題及び対策の抽出 ・最終評価を踏まえ、今後強化・改善等すべきポイントを簡潔に記載	□元々は学校歯科健診のデータなので、どの都道府県においても、各学校のデータを市町村が集約し、これを保健所などを經由して都道府県が集約してフィードバックする、というシステムを築く可能であり、既に取り組んでいる都道府県は少なくないので、こうした取り組みがなされているか否かを評価することも必要ではないか。		
(5)その他コメント			

分野: 歯の健康			
目標項目: 6.5 フッ化物配合歯磨剤使用の増加(使用している人の割合)			
目標値	策定時のベースライン値 (H3年荒川らによる調査)	中間評価 (H16年国民健康・栄養調査)	直近実績値(H22.10月現在) (H21国民健康・栄養調査)
【6～14歳の平均】 90%以上	45.6%	52.5%	86.2%
コメント			
(1)直近値に係るデータ分析 ・直近値が、目標値に対してどのような動きになっているか、留意点を含み分析	経年変化を踏まえたベースライン値と現状の分析、特徴(性、年齢、項目別の分類など)を踏まえた分析		
	○ベースライン値は、研究者の資料に基づくものであるが、18年間に40.6ポイント増加している。		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。	○策定時のベースライン値は、全国的な調査であるので、直近実績値と比較することは可能であり、国民健康・栄養調査においても比較は可能である。 ○使用している歯磨剤がフッ化物配合であるか否かについての認識があまりないとも考えられるので、市販の歯磨剤の90%にフッ化物が配合されている現状からみると、使用者はより高率になっていると考えられる。		
(3)最終評価 ・最終値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。	○目標に向けて改善がみられた。		
(4)今後の課題及び対策の抽出 ・最終評価を踏まえ、今後強化・改善等すべきポイントを簡潔に記載			
(5)その他コメント	□8020推進財団が小中学生2万人を対象とした調査を2005年に実施し、フッ化物配合歯磨剤を使用している児童・生徒の割合は88%であったことを確認している。この調査は2010年にも実施され、フッ化物配合歯磨剤を使用している児童・生徒は約9割であった。また、フッ化物配合歯磨剤が全歯磨剤に占める割合に関する統計(生産ベース)でも約9割と報告されている。国民健康・栄養調査においてフッ化物配合歯磨剤を使っているか否かを個々に調査するのは現実的に難しいので、H21年調査のように「歯磨剤の利用の有無」を調査し、これに上述した8020推進財団や業界統計のデータを組み合わせて活用すべきではないか。		

分野: 歯の健康			
目標項目: 6.6 個別的な歯口清掃指導を受ける人の増加(過去1年間に受けたことのある人の割合)			
目標値	策定時のベースライン値 (H5年保健福祉動向調査)	中間評価 (H16年国民健康・栄養調査)	直近実績値(H22.10月現在) (H21国民健康・栄養調査)
【15～24歳の平均】 30%以上	12.8%	16.5%	20.0%
コメント			
(1)直近値に係るデータ分析 ・直近値が、目標値に対してどのような動きになっているか、留意点を含み分析	経年変化を踏まえたベースライン値と現状の分析、特徴(性、年齢、項目別の分類など)を踏まえた分析		
	<p>○ベースライン値と直近実績値とを比較することは調査の方法や客体などの相違があるが、16年間に7.2ポイント増加している。</p> <p>○平成11年の保健福祉動向調査の結果によれば、18.3%となっており、中間評価では減少し、直近実績値では増加している。調査方法、客体などの相違があるが、全体的に増加傾向している。</p> <p>□H5・11保健福祉動向調査での質問は、「個別的な歯口清掃」だけでなく、目標項目6.13の「歯科健診」を受けたか否かも含まれている。</p>		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。			
(3)最終評価 ・最終値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。	○目標に向けて改善した。		
(4)今後の課題及び対策の抽出 ・最終評価を踏まえ、今後強化・改善等すべきポイントを簡潔に記載			
(5)その他コメント			

分野: 歯の健康			
目標項目: 6.7 進行した歯周炎の減少(有する人の割合)			
目標値	策定時のベースライン値 (H9～10年富士宮市モデル事業報告)	中間評価 (H16年国民健康・栄養調査)	直近実績値(H22.10月現在) (H21国民健康・栄養調査)
【a)40歳】 22%以下	32.0%	26.6%	18.0%
【b)50歳】 33%以下	46.9%	42.2%	27.2%
コメント			
(1)直近値に係るデータ分析 ・直近値が、目標値に対してどのような動きになっているか、留意点を含み分析	経年変化を踏まえたベースライン値と現状の分析、特徴(性、年齢、項目別の分類など)を踏まえた分析		
	<p>○ ベースライン値は、1地域における調査であり、全国平均の直近実績値と比較することは困難であるが、約10年でベースライン値から14ポイント減少している。</p> <p>○ 平成11年の歯科疾患実態調査の結果によれば、35～39歳で26.4%、40～44歳で36.5%、45～49歳で41.0%、50～54歳で43.5%、平成17年の歯科疾患実態調査の結果によれば、35～39歳で23.7%、40～44歳で28.9%、45～49歳で42.8%、50～54歳で41.8%となっており、45～49歳を除き、いずれの年齢階級においても減少傾向が見られる。</p>		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。	○ ベースライン値は、1地域における調査であり、全国平均の直近実績値と比較することはやや問題である。		
(3)最終評価 ・最終値が目標に向けて、改善したか、悪化したかを簡潔に記載。	○ 目標に向けて改善がみられ、目標値を達成している。		
(4)今後の課題及び対策の抽出 ・最終評価を踏まえ、今後強化・改善等すべきポイントを簡潔に記載			
(5)その他コメント			

分野: 歯の健康			
目標項目: 6.8 歯間部清掃用器具の使用の増加(使用する人の割合)			
目標値	策定時のベースライン値 (H5年保健福祉動向調査)	中間評価 (H16年国民健康・栄養調査)	直近実績値(H22.10月現在) (H21国民健康・栄養調査)
【a】40歳(35歳～44歳) 50%以上	19.3%	39.0%	44.6%
【b】50歳(45～54歳) 50%以上	17.8%	40.8%	45.7%
	コメント		
	経年変化を踏まえたベースライン値と現状の分析、特徴(性、年齢、項目別の分類など)を踏まえた分析		
(1)直近値に係るデータ分析 ・直近値が、目標値に対してどのような動きになっているか、留意点を含み分析	<p>○ ベースライン値と直近実績値とを比較すると、35～44歳で25.3ポイント、45～54歳で27.9ポイントといずれも増加しており、目標値の達成が期待できる。</p> <p>○ 平成11年の保健福祉動向調査の結果では、35～44歳で32.6%、45～54歳で29.3%であり、直近実績値からすると増加が著しい。</p>		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。	○ 国民健康・栄養調査において定期的に収集しているデータであり、年ごとに上下はあるが全体的に増加している		
(3)最終評価 ・最終値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。	○ 目標に向けて改善がみられる		
(4)今後の課題及び対策の抽出 ・最終評価を踏まえ、今後強化・改善等すべきポイントを簡潔に記載			
(5)その他コメント			

分野: 歯の健康			
目標項目: 6.11 80歳で20歯以上、60歳で24歯以上の自分の歯を有する人の増加(自分の歯を有する人の割合)			
目標値	策定時のベースライン値 (H5年歯科疾患実態調査)	中間評価 (H16年国民健康・栄養調査)	直近実績値(H22.10月現在) (H21国民健康・栄養調査)
【a】80歳(75～84)で20歯以上 20%以上	11.5%	25.0%	26.8%
【b】60歳(55～64)で24歯以上 50%以上	44.1%	60.2%	55.7%
コメント			
経年変化を踏まえたベースライン値と現状の分析、特徴(性、年齢、項目別の分類など)を踏まえた分析			
(1)直近値に係るデータ分析 ・直近値が、目標値に対してどのような動きになっているか、留意点を含み分析	<p>○ 80歳(75～84)で20歯以上は、1.8ポイント増加し、60歳(55～64)で24歯以上は減少しているが、目標値は共に達成している。</p> <p>○ H11、H17歯科疾患実態調査の20本以上の歯を有する者の割合においても、80～84歳で13.0→21.1%、75～79歳で17.5%→27.1%、60～64歳で64.9→70.3%、55～59歳で74.6%→82.3%とそれぞれの年代で増加している。</p>		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。	<p>○ ベースライン値、直近実績値ともに口腔診査によるものであるが、年齢階級区分が異なっているので、単純には比較できないと考えられる。しかし、17年調査結果により補正すると、12年間で80歳代は9.4ポイント、また60歳代では29.4ポイント増加しており、いずれも既に目標値は達成されている。</p> <p>○ 平成11年の歯科疾患実態調査の結果では、80～84歳で13.0%であったので、6年間でおよそ1.3ポイントの増加であったが、最近の6年間で8.1ポイントと近年急速に増加傾向が見られたが、60～64歳では同じ時期に24.0ポイントから5.4ポイントと増加傾向がむしろ減退している。</p> <p>○ 平成16年の国民健康・栄養調査の結果では、75～84歳で23.0%、55～64歳で71.5%と歯科疾患実態調査の結果と近似している。ただし、これらの数値は自己申告によるものである。</p>		
(3)最終評価 ・最終値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。	○ 目標に向けて改善がみられ、目標値を達成している。		
(4)今後の課題及び対策の抽出 ・最終評価を踏まえ、今後強化・改善等すべきポイントを簡潔に記載			
(5)その他コメント			

分野: 歯の健康			
目標項目: 6.12 定期的な歯石除去や歯面清掃を受ける人の増加(過去1年間に受けた人の割合)			
目標値	策定時のベースライン値 (H4年寝屋川市調査)	中間評価 (H16年国民健康・栄養調査)	直近実績値(H22.10月現在) (H21国民健康・栄養調査)
【60歳(55～64歳)】 30%以上	15.9%	43.2%	42.7%
コメント			
経年変化を踏まえたベースライン値と現状の分析、特徴(性、年齢、項目別の分類など)を踏まえた分析			
(1)直近値に係るデータ分析 ・直近値が、目標値に対してどのような動きになっているか、留意点を含み分析	○ ベースライン値は、1地域における調査であり、全国平均の直近実績値と比較することは困難であるが、直近実績値は中間評価より減少しているが、全体として増加傾向にあり、目標値を既に達成している。		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。			
(3)最終評価 ・最終値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。	○ 目標に向けて改善がみられ、目標値を達成している。		
(4)今後の課題及び対策の抽出 ・最終評価を踏まえ、今後強化・改善等すべきポイントを簡潔に記載			
(5)その他コメント	□患者調査で歯科診療所を調べたデータ(歯科診療所票)の傷病別にみた推計患者数の推移をみると、歯周疾患の割合は大きく増加している。「健康日本21」に本目標が設定された影響であるか否かを評価するのは難しいが、少なくとも目標達成度を評価するデータとして利用していく必要・価値はあるのではないかと。		

分野: 歯の健康			
目標項目: 6.13 定期的な歯科検診の受診者の増加(過去1年間に受けた人の割合)			
目標値	策定時のベースライン値 (H5年保健福祉動向調査)	中間評価 (H16年国民健康・栄養調査)	直近実績値(H22.10月現在) (H21国民健康・栄養調査)
【60歳(55～64歳)】 30%以上	16.4%	35.7%	37.0%
コメント			
(1)直近値に係るデータ分析 ・直近値が、目標値に対してどのような動きになっているか、留意点を含み分析	経年変化を踏まえたベースライン値と現状の分析、特徴(性、年齢、項目別の分類など)を踏まえた分析		
	<input type="radio"/> ベースライン値と直近実績値とを比較すると、増加しており、目標値を既に達成している。 <input type="radio"/> 定期的な歯科検診の受診者については、近年微増となってきている <input type="checkbox"/> H5・11保健福祉動向調査での質問は、「歯科検診(健診)」だけでなく、目標項目6.6の「個別的な歯口清掃」を受けたか否かも含まれている。		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。			
(3)最終評価 ・最終値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。	<input type="radio"/> 目標に向けて改善がみられ、目標値を達成している。		
(4)今後の課題及び対策の抽出 ・最終評価を踏まえ、今後強化・改善等すべきポイントを簡潔に記載	<input type="checkbox"/> H16・21国民健康・栄養調査で評価に用いたデータ(質問)は、「ここ1年間に歯科健診を受けたか否か」であり、「定期的な歯科検診」を受けているか否か、という目標値の主旨を十分示したものとは言い難い面もある。もともと概念整理がやや曖昧なところもあり、今後検討を要するのではないか。		
(5)その他コメント			